

## 令和元年度第4回自立支援協議会相談支援部会 議事要旨

1. 開催日時 令和2年2月6日(木)午後1時30分～3時30分(非公開開催)

2. 開催場所 市役所4階S2・S3会議室

3. 出席者(委員)\*団体名のみ記載

リーダー:(福)パーソナル・アシスタンスとも

サブリーダー:(福)サンワーク

委員:いちょうの会、浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市身体障害者福祉会、(福)敬心福祉会、(特非)千楽、(特非)発達わんぱく会、(特非)かぷあ、(特非)タオ、(福)佑啓会、(福)浦安市社会福祉協議会、介護給付費等の支給に関する審査会、新浦安駅前地域包括支援センター、猫実地域包括支援センター、こども発達センター、社会福祉課

(事務局)障がい事業課、障がい福祉課

### 4. 議事次第

1. 開会

2. 議題

(1) 第4回自立支援協議会の協議内容と報告

(2) 第3回相談支援部会・作業部会の振り返り

(3) 事例検証

3. 閉会

4. 配布資料

議題(1)資料1-1 第4回自立支援協議会 報告

議題(2)資料2 作成中の事例集資料

### 5. 議事概要

#### 1. 第4回自立支援協議会の報告

第2回、第3回自立支援協議会の内容を報告した。

協議会からの意見として、相談支援部会は地域の課題の抽出が期待されているので、ケースワーク、事例検証をしていく上で、足りない社会資源等の地域課題の見える化にも取り組んでもらいたいということが報告された。

#### 2. 第3回相談支援部会作業部会の振り返り

事例集案を基に振り返り行い、次年度事例集の完成に向け、議論する内容を整理した。

事例検証に、児童の相談に対する初期対応を追加して行うこととなった。

地域課題については、次年度の早々に議論することが確認された。

■主な意見（リーダー：リ、サブリーダー：サ、委員：委、事務局：事）

リ：前回までの意見交換をまとめると、「連携するための心理的なハードルがあるので、どの機関と連携すればよいか後押しがあればいい」、「どの機関が旗振り役（イニシアティブ）をとるかという話では、最初は中核地域生活支援センターがじゅまる・基幹相談支援センター、その後支援チームができてきたら、がじゅまる・基幹から移行していくのではないか」、「支援チームの集まる日程は、月に1度共有する日を決めて、旗振り役から招集がかかったら、参集する仕組みを作ってもいいのではないか」「自分に関係ない利用者以外の方の緊急事態にいかに関心する時間を空けて参加できるかという地域のコンセンサスを得ていくかがとても大切」という話だった。

事：事例集は、来年度完成を予定しているので、来年度は1回目・2回目で初動チャート以外の部分を中心に議論いただき、3回・4回で仕上げていくイメージがいいかと思う。

また、来年度は福祉計画の策定を行うが、素案に盛り込むためには、早い段階で地域課題について課題をピックアップしてもらえれば、策定委員会や協議会で議論できると思う。

委：何年前かにヘルパー不足について、協議会まで意見を挙げてもらったが、その後どういう進捗状況なのか

事：ヘルパー不足については、従業者向けに住宅手当の補助金を実施しており、事業者アンケートの結果等を来年度以降の施策に反映していきたい。

委：障がいのある方の支援については、軽度の方の支援になりがちだが、解決策等について検討いただいているのか。

事：移動支援事業や日中一時支援事業は市の規則で決めている単価だが、利用者負担額の問題、事業者の収支の現状等を含めて検討していく形になると思う。

リ：入浴介助のヘルパーが足りないという問題。長時間の移動支援のヘルパーが確保できないという話がある。また、都心に人材が流れているという仮説を検証するのも大事だと思う。

サ：相談支援事業所から新規でヘルパーさんの依頼をするときに、頼み込んでお願いすることが多いというのが今も昔も変わらないのではないかと。ヘルパーさんの空き状況や事業所の状況などを共有できているといいのではないかと。

委：事業所に聞けるなら、断った事例を聞いてもらえれば、本当に必要なことが見えてくるのではないかと。

委：事例集について、障がいを抱えるまたは発達に不安のある子どもがいる保護者からの相談の事例を追加してもらえたらどうか。現在つながる先はあっても、他にもあ

ることを示していくのも相談支援部会の役割ではないかと思う。

リ：子どもを支援する相談支援事業所もいっぱいあるので、必要な視点だと思う。

### 3. 事例検証

#### 架空事例1

50代の精神障がいのある女性の家族からの相談に対する初期対応について。家族は父80代、母70代、妹40代。この女性は幻想や妄想から過去に母親に暴力をふるい強制的に入院になっており、その後服薬が行えなくなり何度か入退院をくりかえし、現在4度目の入院中。本人から退院の希望があったことから、家族から退院後の生活・家族との関係をふまえてどうしたらいいかという相談があった。

#### 架空事例2

18歳の知的障がいがある娘の父親から、高校卒業後の生活についての相談。娘は重度の知的障がいと自閉症があり、現在、父親、弟と3人暮らしで、母親は死別している。父親は父子家庭なので、18歳の娘に対しどういふサポートがいいか、今後の余暇についてどうしたらいいか悩んでいるという相談。

#### ■主な意見のまとめ

2事例（精神障がいの方、知的障がいの方）について、架空事例ではあるが、現実的には多い事例であり、様々な角度から検証を行うことができた。

次年度は児童の事例を検証し、事例集の作成をしていくこととする。